

北九州市新門司マリーナにおける利用者の意識調査

九州共立大学 工学部 学生員 ○藤原 朋子
九州共立大学 工学部 正 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、北九州市の新門司マリーナにおいて、平成5年7月～8月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、利用者の意識の概要について報告する。なお、新門司マリーナの概要、来訪者の属性、施設の利用状況などについては、参考文献を参照されたい。

2. アンケート調査の概要

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	新門司マリーナへの来訪者全員
調査期間	平成5年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目28、合計38項目
回収数	853
有効回収率	807(94.6%)

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

3. 施設利用前の意識

(1) 来訪者の施設利用前の意識

来訪者の施設利用前の意識としては、約45%が「普通」続いて、約35%が「興味あった」と回答している。(図-1参照)

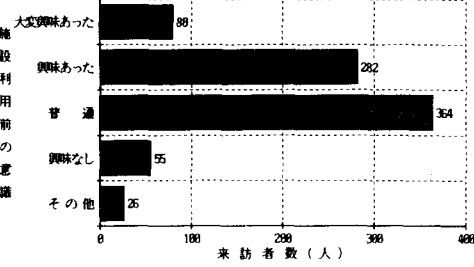


図-1 来訪者の施設利用前の意識

(2) 新門司マリーナの知名度

来訪者の約37%が「まあまあ知られている」と回答し、続いて、約29%が「少し知られている」で、「よく知られている」は約14%である。(図-2参照)

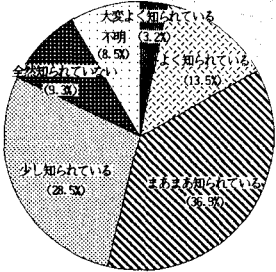


図-2 新門司マリーナの知名度

新門司マリーナが平成3年11月に完成して以来、約1年8ヶ月しか経過していないことを考えれば、この程度の知名度が現状であろう。

(3) 利用前の施設に関する知識

来訪者の利用前の各種施設に関する知識は、「食事ができること」すなわち、レストランとしての機能を約58%がよく知っていたと回答している。続いて「買い物ができる」ショッピングとしての機能を約28%がよく知っていたと回答しており、マリーナとしての機能はまだ十分知られていないようである。(図-3参照)

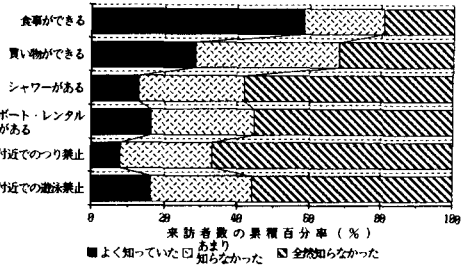


図-3 利用前の施設に関する知識

なお、来訪者の約12%(96人)は他所でマリーナを利用(艇の保管など)したことがあると回答している。

4. 施設利用後の意識

(1) 来訪後受けた感じ（イメージ）

来訪者の約54%が「普通」と回答し、約27%が「楽しかった」と、「もっと楽しいと思っていた」の約10%を上回っている。

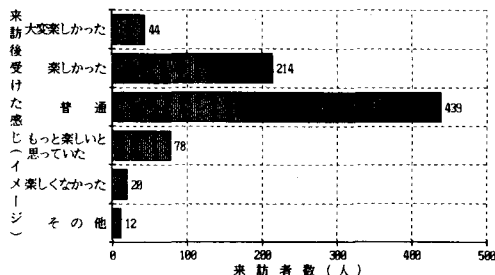


図-4 来訪後受けた感じ（イメージ）

(2) 増設を希望する施設

海洋性レクリエーション（マリレジャー）施設だけに、増設を希望する施設としては、水族館（水槽）が約45%と圧倒的に多く、続いて、展望台が約26%となっている。（図-5参照）

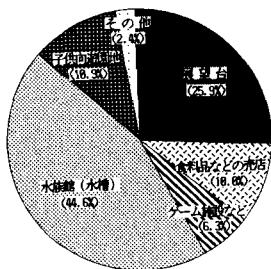


図-5 増設を希望する施設

なお、禁煙コーナーの設置については、すでに指定喫煙場所以外では禁煙となっているため、現状のままでよいと約50%が回答している。

(3) レストランの営業時間

現行の営業時間は、午前11時～午後10時となっており、過半数の約50%が現在のままでよいと回答し

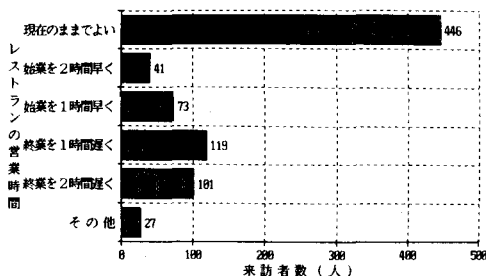


図-6 レストランの営業時間

ており、約15%が終業を1時間遅く、約13%が2時間遅くと希望している。（図-6参照）

(4) 公共施設としてのマリーナの必要性

公園などと比較して、公共施設としてのマリーナの必要性について、来訪者の約26%が絶対必要、約71%が必要と回答しており、併せて約97%の人がその必要性を感じている。（図-7参照）

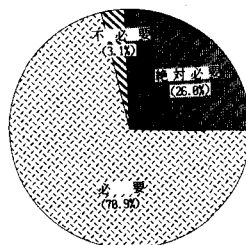


図-7 公共施設としての必要性

(5) 周辺に緑地などの必要性

新門司マリーナの周辺にはすでに十分な緑地が整備されているため、公園（広場）、散歩道（遊歩道）などの希望が多い。（図-8参照、複数回答あり）

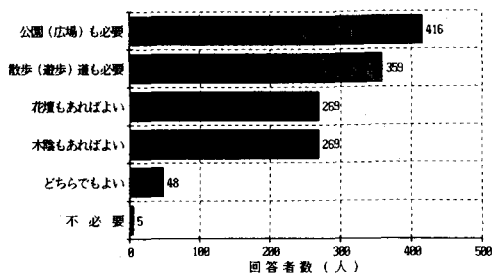


図-8 周辺に緑地などの必要性

5. おわりに

北九州市の新門司マリーナにおける利用者の意識についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画のためのデータが得られた。今後、さらに他場所における調査を進めて、比較検討を行いたい。

最後に、今回の調査に御協力・御助言をいただいた北九州市港湾局、新門司マリーナ（株）、（株）アクアランド、九州共立大学の関係者に感謝いたします。

参考文献

大城明弘、片山正敏：北九州市新門司マリーナにおける利用状況調査、平成5年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集、平成6年3月